

提出内容

受付番号： 620221018000005866
提出日時： 2021年10月4日15時22分

案件番号： 620221018
案件名： エネルギー基本計画（案）に対する意見の募集について
所管省庁・部局名等： 資源エネルギー庁長官官房総務課 パブリックコメント受付担当宛
意見・情報受付開始日時： 2021年9月3日15時0分
意見・情報受付締切日時： 2021年10月4日23時59分

郵便番号： 164-0011
住所： 東京都中野区中央2-48-4 小倉ビル1F
氏名： NPO法人原子力資料情報室（担当：松久保肇）
（担当：松久保肇）
連絡先電話番号： --
連絡先メールアドレス： matsukubo@cnic.jp

提出意見：

・該当箇所：114行目から120行目：10年前の未曾有の大災害は、エネルギー政策を進める上でのすべての原点であり、・・・最後まで福島復興に取り組んでいくことが政府の責務である。その上で、・・・日本のエネルギー需給構造の抱える課題の克服という・・・策定する。」

・意見概要：このように言うのであれば、早急に原発ゼロの社会を目指すのが、道理ではないか。よって、目次の一覧から、および、案の記述でこれからの原発に関する努力目標になっているすべての記述箇所から、たとえば、196行の「常に安全の確保を大前提としつつ」など、いっさいを削除すべきである。原発なしでの「エネルギー基本計画」をつくるべきである。

・理由：東電福島第一原発事故は、たしかに未曾有の原発災害であり、どのくらいの歳月をかけて、どのように終息するか、確かな予測を誰も、世界の叡智と称するすべてを集めても、立てることができないだろう。

未だ、事故原因、事故の進展、事故の結果、が全部解明されたわけでもない。再び決してこのような事故が起こらないと言える根拠を示すことができないのが現状である。人類が経験してこなかった災厄である。そういうなかで急遽つくられた新規制基準そのものは、事故を起こさないための基準たりえない。それを、世界で最もきびしい基準などと政府筋は言うが、新規制基準に合格しても、それは安全を保障するものではない。田中俊一・前規制委員会委員長すら、そのように明言しているではないか。

提出内容

原発と縁を切って、今後の社会像を考えなければならないのだ。

・該当箇所：209行目「・・・原子力発電所事故の経験、反省と教訓を肝に銘じて」、214行目「これまで原子力を活用したエネルギー政策を進めてきた政府の責務である。」、219行目「その上で、今後も原子力を活用し続ける上では・・・反省を一時たりとも忘れてはならない。」、223行目「安全を最優先し・・・可能な限り原発依存度を低減する。」

・意見概要：実に空疎な、口先だけの文言が並んでいる。これらをいっさい削除することを求める。つまり、「原点」の心得が間違っているのだ。

・理由：たとえば、「一時たりとも忘れてはならない」は精神訓話に過ぎない。

3・11以後に、東電柏崎刈羽原発で起きているIDカード不正使用事件、核セキュリティ違反事件、数多くの未完成工事を完成と偽って発表等は、福島事故を起こした、その当事者が起こした事件であり、新規制基準に合格後の事件である。このことをエネルギー基本計画案を作成した委員たちは、どのように受け止めているのか。

「安全を最優先し」などは出来ない相談なのである。安全を最優先したら、原発は稼働できない。そのくらいは、このエネルギー基本計画を準備した委員各氏も分かっているのではないのか。